

「野生生物と社会」原稿の書き方

(2023年5月30日)

書式：

原稿は縦長 A4 判用紙横書きとし原則として Word などのソフトウェアを用いて作成する。1行25字、1ページ30行とし、上下に約3cm、左右に約4cmの余白をとる。フォントはMS明朝体とし、英数字はTimes New Roman とする。

原稿は1ページ目に、表題、筆頭著者名（・第2著者名・…）、著者所属を書く。その下に、責任著者（コレスポンディングオーサー）の氏名と連絡先Eメールアドレスを書く。

2ページ目に英文で、Title、First author（, Second author, …）、Institutionを書く。その下に、Corresponding author と email address を書く。

所属変更の場合には、1ページ目（和文）と2ページ目（英文）の著者名の右肩にアスタリスクをつけ、新所属を脚注として、それぞれ1ページ目と2ページ目の下段に配置する。

例：野生太郎1*

1 野生大学

*現所属 野生研究所

3ページ目に、英文要約（abstract）とキーワード（5語以内、英単語、アルファベット順）を書く。事例報告およびデータペーパーにおいては和文の要約でもよい。要約のなかには、略号や頭文字語（acronym）を用いないこと。

4ページ目以降から本文、注、引用文献、表、図の説明、図の順に配列する。

謝辞があれば、本文の末尾に書く。助成金などを明記したい場合には、謝辞のなかに含める。

原稿には、各ページ下部中央に第1ページから最終ペ

ージまで連続したページ番号をつける。また、原稿の左側に5行毎に第1ページから連続した行番号を入れる。

区分け：

材料・方法・調査地、結果、考察などを区分けする中見出しは、上下の1行を空けて、下に波線をつけて中央に配置する。さらに細分する小見出しは上の1行を空けて、同様に波線をつけて左寄せとする。

注：

本文への注は、本文該当箇所の右肩に通し番号を(1)、(2)、(3)のように記し、本文と引用文献の間に一括して掲載する。

学名：

動植物名は初出の際に、和名に続けて括弧内に学名をつける。学名は下線を引く。民俗学・民族学などの分野で地方名（vernacular name）や特殊な生物名を表記する場合にはこの限りではないが、なるべく学名に比定できるようにするのが望ましい。

イタリック：

本文中では、原則として学名以外はイタリック指定をしない。SD、SE、p、n（サンプル数）などもイタリックとしない。

人名：

アルファベット表記の人名は第1文字のみを大文字とし、ロシア語、タイ語などの人名は、標準的な方式にしたがってアルファベット表記にする。中国語の簡体字表記などは日本で用いられている漢字を用いる。

文献の引用：

引用は、原則として公表されたものから行う。本文中の引用は「鈴木・田中（1971）によれば・・・」、「・・・明らかにした（足立ほか1980）」、「・・・研究がある（Hoffman and Taber 1960、Geist 1970、Gray et al. 1975）」などとし、出版年の順にする。同一著者の引用を並べる場合も著者名を省略しない。著者名が3名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」と省略する。

印刷中の文献の引用は和文の場合は（印刷中）、英文の場合は（in press）として記載し、投稿中のものは引用しない。

文献一覧：

著者と発行年の両方が明らかなものを引用文献に記載する。それ以外のものは注に記載する。

本文中で引用した文献はすべて列記し、引用していない文献は載せない。文献一覧はアルファベット順に配列し、著者が同じ場合には、単独の著者名を発表年の古い順にはじめに置き、第2、第3の著者名のアルファベット順であとに続ける。

すべて同一著者で同一年の場合は、本文中の引用順に、発表年のあとに a、b、c をつけて区別する。著者が複数の場合、日本語表記の場合は「・」でつなぎ、アルファベット表記の場合は「,」「and」でつなぐ。

文献の配列は、以下の例にしたがう。

例：沼田 真（1982a）

沼田 真（1982b）【同一著者の場合、-などで省略しない】

沼田 真・大沢雅彦（1980）【発表年は上記論文より

古い、共著者がいるので後に配列する】

沼田 真・依田恭二（1975）【発表年は上記論文より

古い、第2著者のアルファベット順により

後に配列する】

田中政則・高橋誠一・大塚敬子（1986）

王 祖望（Wang Z.）・盛 和林（Sheng H.）【中国語表記の場合、名前の直後にアルファベット

の綴りをつけ、筆頭著者のアルファベット順に配列する】

文献は形式から（1）学会誌、（2）単行本、（3）論集のなかの章、の引用に分けられる。欧文・和文を問わず、雑誌名は省略しない。また Ibid などの省略もしない。単行本で特定の箇所を引用する場合には、「単行本及び論集のなかの章」と同様に掲載ページを明記する。欧文雑誌名と欧文単行本書名は下線を引く。文献一覧は以下の例にしたがう。

（1） 学会誌

著者名（発行年）表題 雑誌名 巻(号):掲載ページ.
Authors (year) Title. Journal title volume
(issue): pages.

藤本征司（1993）1977年有珠山噴火後の森林植生14年間の推移—特に高木類の対応パターン. 日本生態学会誌 43(1): 1-11.

Ohsawa, M., D. Suzuki and J. Kawano (1990) An interpretation of latitudinal patterns of forest limits in South and East Asian mountains. Journal of Ecology 78 (2):326-339.

（2） 単行本

著者名（発行年）「著書名」. 発行所, 発行所所在地

Authors (year) "Title". Publisher, Place of publication.

畠山武道 (1992) 「アメリカの環境保護法」. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

Leopold, A. (1933) "Game Management". Charles Scribner's Sons, New York.

(3) 単行本及び論集のなかの章

著者名 (発行年) 表題. 「著書名」 (編集者名), 掲載ページ. 発行所, 発行所所在地

Authors (year) Chapter title. In "Book title" (Editors), chapter pages. Publisher, Place of publication.

樋口広芳 (1984) 種分化と資源分割. 「現代の鳥類学」 (森岡弘之・中村登流・樋口広芳, 編), pp. 216-236. 朝倉書店, 東京.

Gray, A. J. (1991) Management of coastal communities. In "The Scientific Management of Temperate Communities for Conservation" (Eds. Spellerberg I. F., F. B. Goldsmith and M. G. Morris), pp. 227-243. Blackwell Scientific Publications, Oxford.

(4) ウェブ情報

著者と発行年の明らかなものを引用文献に記載する。それ以外のものは注に記載する。

著者名 (発行年) 「記事タイトル」 (URL) xxxx 年 xx 月 xx 日確認。

Authors (year) "title of web page". (URL) Accessed yyyy-mm-dd.

農林水産省大臣官房統計部 (2017) 「平成 29 年度産麦類 (子実用) の作付面積 (全国) 及び収穫量 (都府県)」

(<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/saku>

[motu/sakkyo_kome/attach/pdf/index-33.pdf](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/saku/motu/sakkyo_kome/attach/pdf/index-33.pdf))

2017 年 11 月 6 日確認。

Alaska department of fish and game (2017)

"2017 commercial salmon harvest summary".

(<http://www.adfg.alaska.gov/index.cfm?adfg=pressrelease.pr10032017>) Accessed 2017-11-06.

図 :

図 (写真を含む) は 1 点 1 枚とする。図は鮮明なもので、そのまま版下として使えるように、執筆者の責任で別紙に作成する (図表用の版下作成の必要が生じた場合には、執筆者が実費を負担する)。

既往の資料から作図した場合や既発表の図を転載する場合には、関係機関から許可を得たうえで、その旨を明示する (例: Harper (1975) より作図, 川村 (1982) より, など)。

図の別紙にはそれぞれ右上端に著者名と図の番号を示す。1 点のみでも図 1. とする。図の表題は本文を読まなくても意味がわかるものとし、別紙にまとめて記載する。

表 :

表は 1 点 1 枚とし、表題もあわせて記載する。表題は本文を読まなくても意味がわかるものとする。表は横線のみとする。1 点のみでも表 1. とする。なお、表が横に長い場合、印刷の向きを横にすることがある。

単位 :

単位はメートル法とする。民俗学・民族学などの分野で尺貫法など、それ以外の表現を必要とする場合にはこの限りではないが、メートル法に比定できるようにするのが望ましい。

データペーパーにおける電子ファイル (データセット) :

データペーパーの対応電子ファイルは以下の通り。

	拡張子	種別	MIME タイプ
1	asc	文書	text/plain
2	dvi	文書	application/x-dvi
3	htm	文書	text/html
4	html	文書	text/html
5	latex	文書	application/x-latex
6	pdf	文書	application/pdf
7	rtf	文書	application/rtf
8	rtx	文書	text/richtext
9	sgm	文書	text/sgml
10	sgml	文書	text/sgml
11	tex	文書	application/x-tex
12	texi	文書	application/x-texinfo
13	texinfo	文書	application/x-texinfo
14	txt	文書	text/plain
15	xml	文書	application/xml
16	bmp	画像	image/bmp
17	gif	画像	image/gif
18	jpe	画像	image/jpeg
19	jpeg	画像	image/jpeg
20	jpg	画像	image/jpeg
21	rgb	画像	image/x-rgb
22	tif	画像	image/tiff
23	tiff	画像	image/tiff
24	xbm	画像	image/x-xbitmap
25	xwd	画像	image/x-xwindowdump
26	aif	音声	audio/x-aiff
27	aifc	音声	audio/x-aiff
28	aiff	音声	audio/x-aiff
29	au	音声	audio/basic

30	kar	音声	audio/midi
31	mid	音声	audio/midi
32	midi	音声	audio/midi
33	mp2	音声	audio/mpeg
34	mp3	音声	audio/mpeg
35	mpga	音声	audio/mpeg
36	ra	音声	audio/x-realaudio
37	ram	音声	audio/x-pn-realaudio
38	rm	音声	audio/x-pn-realaudio
39	rpm	音声	audio/x-pn-realaudio- plugin
40	snd	音声	audio/basic
41	wav	音声	audio/x-wav
42	avi	動 画 像	video/x-msvideo
43	iges	動 画 像	model/iges
44	igs	動 画 像	model/iges
45	mesh	動 画 像	model/mesh
46	mov	動 画 像	video/quicktime
47	movie	動 画 像	video/x-sgi-movie
48	mp4	動 画 像	video/mp4
49	mpe	動 画 像	video/mpeg
50	mpeg	動 画 像	video/mpeg

51	mpg	動 画 像	video/mpeg
52	msh	動 画 像	model/mesh
53	qt	動 画 像	video/quicktime
54	silo	動 画 像	model/mesh
55	vrml	動 画 像	model/vrml
56	wmv	動 画 像	video/x-ms-wmv
57	wrl	動 画 像	model/vrml
58	Z	書庫	application/x-compress
59	cpio	書庫	application/x-cpio
60	gtar	書庫	application/x-gtar
61	gz	書庫	application/x-gzip
62	lzh	書庫	application/octet-stream
63	tar	書庫	application/x-tar
64	zip	書庫	application/zip

るものではないが、使用方法の説明が不十分な場合には
審査に影響を及ぼすことがある。

<https://publicationethics.org/cope-position-statements/ai-author>

文章作成における生成系 AI 等の AI ツールの取り扱い :

生成系 AI 等の AI ツールを用いて学術論文の要旨、文
書、図表、画像等を作成することは、著作権や剽窃など
研究倫理にかかわる問題を発生しうる可能性が指摘され
ている (※)。そのため、原稿作成のすべて、あるいは
一部において生成系 AI を用いた原稿を投稿する場合に
は、方法においてその利用箇所や利用方法を明記する。
なお、原稿作成に生成系 AI を用いることを一律に禁止す